

# 研推だより No.11

令和5年  
6月21日  
祝推進部会

昨日は今年度の第1回話題提案授業が行われました。第2分科会から、3年生の筧先生が実践提案をしてくださいました。理科「昆虫の育て方」の本時は、卵から成長になるまでの成長過程を捉えさせる内容でしたが、子供たちが実に上手にタブレットを活用しながら夢中になって図鑑を作っている姿が印象的でした。また、授業当日に至るまでに、第2分科会の先生方は自主的に何度も検討会を開いて議論を重ねてくださっていました。分科会メンバーの先生方も筧先生の授業を分科会全体でサポートし、検討会では自分の授業のように話をしてくださったのがとても素敵だな、と思いました。筧先生、第2分科会の先生方、本当にありがとうございました！

また、その他の先生方も協議会では活発な議論をありがとうございました。やはり自分たちで色々と話し合っただけで見えてくることには、とても価値があるように思います。昨年度の反省も踏まえて、今回の協議から見えてきた改善ポイントを明らかにしました。ぜひこれからの日々の授業に生かしていきましょう！

## 1 第1回話題提案授業 報告（記録：第2分科会）

### 1 校長挨拶

本日はありがとうございます。児童がとても意欲的でした。分科会の先生たちが遅くまで集まってがんばってました。授業者の学びはもちろん、みなさんの糧になればよいです。いしげつとむ先生よろしくお祈りします。本校は研究発表校なので、一年を通してお願いします。

### 2 分科会提案

自分の考えを意図的に整理できる児童像を目指している。ハウセンカの成長記録を撮りながら、観察してくのがいいのでは、ないか考えたが意図的に写真を取捨選択するには枚数が足りないので、チョウの単元にした。図鑑を作り、説明するという目標を作ることにより、目的意識と相手意識を持たせた。ハウセンカの成長記録を取らせることにより、写真で観察することがよいと実感させた。児童同士で撮った写真を共有することでより良い図鑑、観察のしかたを、学び。いい写真とは特徴を説明したり、アップで見やすい写真。自分で観察したチョウの観察で気付いたことを言語化していくことが深い学び。体験と学びをリンクさせ、よりよい学びにしていく。

### 3 授業者自評

児童たちが自分たちで撮った写真を実際に使い並べるので、考えと思考と方法が広がる。児童たちが一人ひとり意欲的に行っていたと思う。

### 4 協議

	成果	改善点
1 グループ	主体的な気持ちは感じた。発表ノートをうまく使っていた。	ワークシートは必要だったのか？マーキングをすることで写真が見にくかったのではないか。マーキングの使い方を指導。大きなテレビも効果的に使い児童が作ったいい図鑑の例を提示すればよかったのではないか。

2グループ	方法がよかった。図鑑をタブレットで作るのがよかった。児童の主体的な態度がとても高かった。意欲エンジン高い！	対話的な学びがしたいから、ワークシートを使ったが記入する時間や、共有する時間が足りてなかった。思考の中心はなんなのか決めたいほうがいいのでは。
3グループ	意欲が高く素晴らしい。	タブレットを使うことによりスキルの個人差がでるのではないかな。対話的な学びは必要だが、途中で図鑑づくりは止めずにやったほうがよかったのではないかな。途中で止めて児童の誰かの良い例を提示するだけでもよかったのではないかな。理科的な視点はどうだったのか。どこで理科的な思考ができるのか。写真自体にも前から声掛けがあるとよいのではないかな。どんな特徴を捉えた図鑑を作りたいか決めさせてもよかったのでは。
4グループ	板書でまとめたり、テレビを使い丁寧に説明でき、児童の発言を広い丁寧にできたのでよかった。	図鑑を作成する際のポイントを押さえすぎたのではないかな。そこをふっわとさせた方が、思考が深まり、広がったのではないかな。
5グループ	主体的な学びがとてもよく学級経営がうまくいっている。	定点で写真を撮るなど、写真の撮り方に指導を加えた方がよいのではないかな。図鑑の作成中に簡単でもいいのでお隣とかと交流した方がよいのではないかな。画面とワークシートのギャップがすごいので、ワークシートは次でもよかったのでは。



<b>全体協議</b>	<b>①紙とICT、どう使い分ける？</b> <b>②学びの(意欲)エンジンをどう回すか？</b> <b>③何を見せるか(相手意識)</b> <b>④本時のめあてと活動、ゴールの一体化</b>
まとめ	<協議から見えてきたこと> ①理解したことの言語化 ②理解したか把握する ③より良い学びのために常に考える。(アンラーン) ④児童自身に何で学ぶか決めさせる

## 5 指導・講評 (講師:東京女子体育大学 教授 石出 勉先生)

伝える相手を意識することがとてもよかった。→チョウの成長を知らない人に説明する。

作成過程の共有を児童たちに意識化させることが大事。

伝えたいことの明確化。矢印を使っている人が多かった。だが、矢印の使い方に違いは出ていたので、そこを説明できるとよい。

友達の作品のよいところ (相互評価)。←ここが大事だったのではないかな。最初に説明しすぎたのではないかな。簡単な例をだすくらいで、導入や展開は最小限にとどめるとバリエーションがで

てくるのではないか。さらに、交流の時間が長くとれる。

文字の入力方法に違いが多かった。だんだんとタイピングに統一できればよいのではないか。

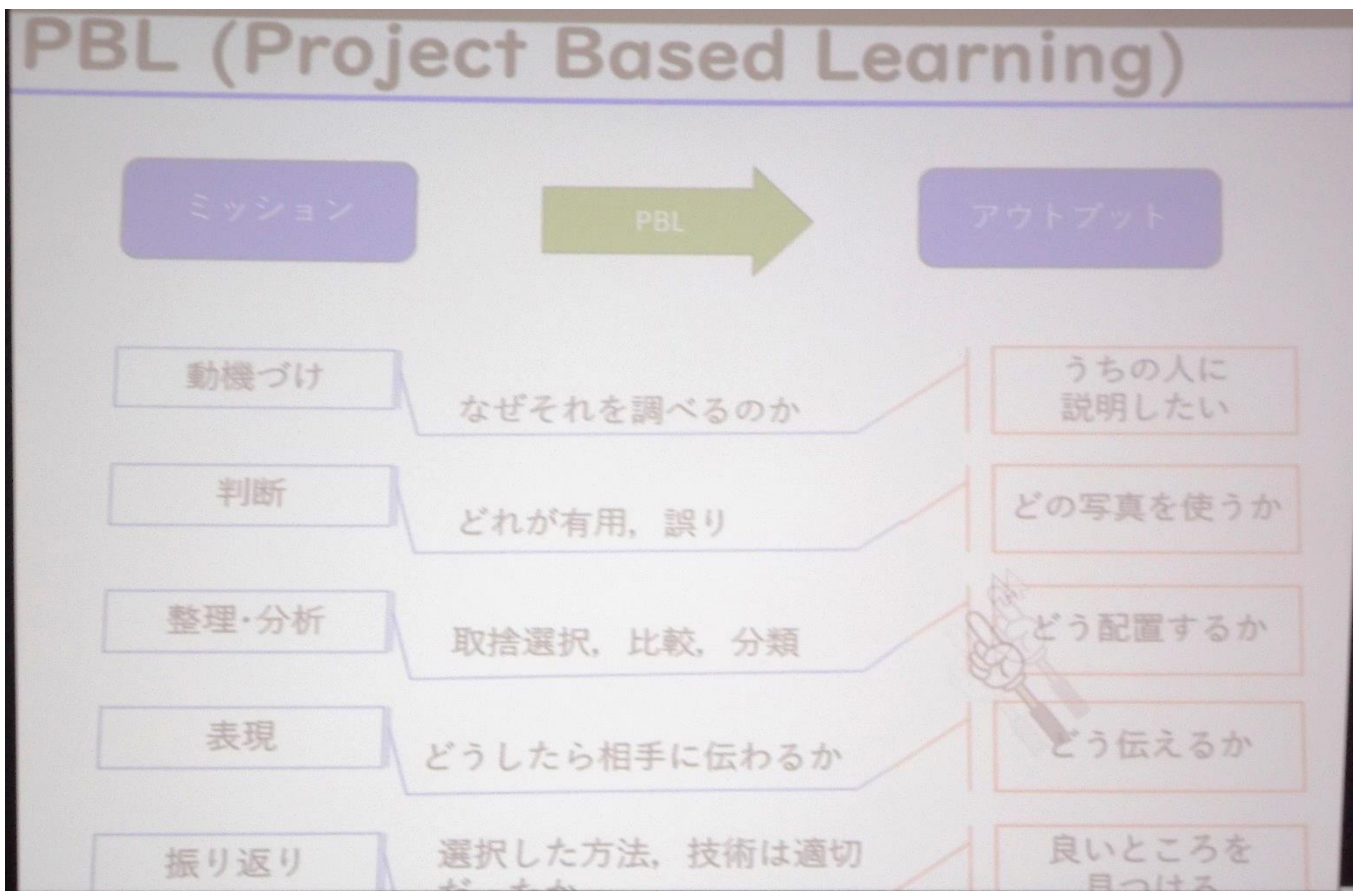
「理解している」とは？

- ① 生物には色、形、大きさ、姿、環境とかかかわっていることを理解している。
- ② 昆虫の育ち方には、一定の順序があることを理解している。

より高い評価をつけるにはなにが必要か？

成長段階の特徴をとらえている。

活動した後に何が残るのか、最低限の目標を達成できればよいラインを作ればよいのではないか。児童が何を学んだのか、何を達成できたのか自覚させる。



これまでの常識はこれからの常識ではない。パターン化した思考をやめて、常にどうすれば最善なのか考える。

学びの自己調整、多様な考え（他者参照・自己更新）紙かデジタル化は児童が決める、個別か協働かは児童が決める。同時多発的に協働で学ぶ。

### ICT の効果的な活用

- ・ 児童の発想を活かす
- ・ 使えたいときに使える機能を使える→個別最適な活用
- ・ 仲間と共有できる
- ・ アイデアを蓄積する
- ・ 試行錯誤できる→協調・協働的な学び（失敗が許容される）

いよいよ始まった今年度の話題提案授業！

研究発表にむけての第一歩がスタートですね

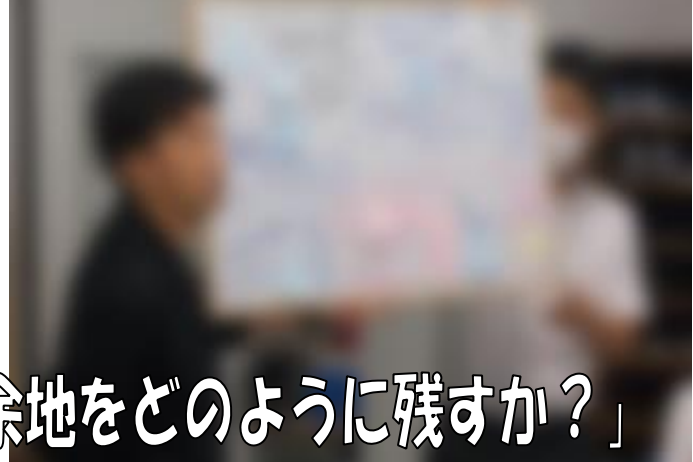

3年生でもここまで使えるんだ！という驚き！  
寛先生のご指導の賜物ですね！

寛先生、分科会の先生方ありがとうございました！



協議会での活発な意見交流、ありがとうございました！

いつもグイグイ話し合ってくださって、とても嬉しいです！



「子供自身が考え、工夫する余地をどのように残すか？」

これからの授業づくりのヒントになります



石出先生からも、たくさんの御示唆をいただきました



今回学んだことを、授業に生かしていきましょう！

# 今日の



## ① 学びの(意欲)エンジンをどう回すか？

→「やりたい」「学びたい」と思う授業へ

## ② 紙とICT、どう使い分ける？

→使い分けるのは教師？子供たち？

(※ここはそろそろ教師側も整理が必要ですね)

## ③ 何を見せるか(相手意識)

→相手は大人？子供？何年生？

→どんな工夫をしたらよいか考えさせる

## ④ めあてと活動の一体化

→この活動で、めあてが達成できるか？

